

りの数は【結果2】の $\frac{24}{20}$ より、 $\frac{6}{5}$ 倍になる。また、実験1ではギアAを用いているがギアBの場合、ギアの大きさが $\frac{4}{5}$ 倍になることで、かかる力の大きさは反比例し $\frac{5}{4}$ 倍になる。【結果2】のギア2の後輪側のおもりの数が6個であるので、ギアBとギア2を使用したときの後輪側のおもりの数は $6 \times \frac{6}{5} \times \frac{5}{4} = 9$ (個)となる。



★ワンポイントアドバイス★

思考力が必要な難問が多い。特に課題5は難しい問題も多く、時間配分に気をつけよう。基本的な問題でしっかり得点するのがよいだろう。どの問題も、問題文を読んで与えられた情報を整理することが、正解へとつながっている。

< 適性検査 I 第 2 部解答例 > 《学校からの解答例の発表はありません。》

課題1

問い1 (ア) 15 (イ) 1

問い2 (ウ) 750(mm)

〈説明〉 視力を x 、全体の幅を y (mm)とすると、 x と y の間には反比例の関係が成り立ち、 x と y を使った式で表すと $y = 7.5 \div x$ となる。視力が0.01のとき $x = 0.01$ であるので、 $y = 750$ (mm)。

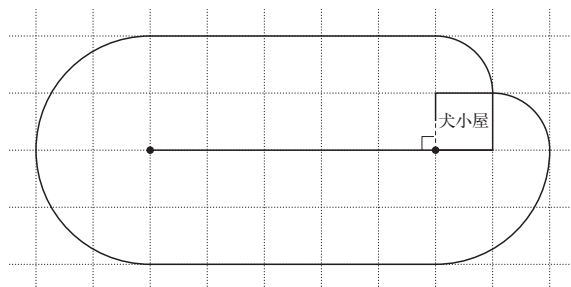
問い3 1.4

課題2

問い1 (ア) 2(m) (イ) 12.56(m²)

問い2 (ウ) 20(m²)

問い3



問い4 (エ) 31.99(m²)

課題3

問い1 (ア) 5 (イ) 4 (ウ) 1

問い2 〈理由〉 表1では各生徒の貸出冊数が正確にわかるが、表2・3では5冊ずつの範囲ごとのデータしかわからない。6年1組と2組の生徒数は30人で同じなのでクラス全体の貸出冊数の合計が同じなら平均貸出冊数は同じになるが、表2・3の結果が同じでも、貸出冊数の合計が同じかどうかはわからないから。

問い3 (エ) ②

〈理由〉 2人ずつの和と差の大きい順から73, 64となっており、これはそれ